

キャラクター名 プレイヤー名

メインクラス	バナレット	Lv.1:		レベル	30
サポートクラス	シャーマン	Lv.1:	ダンサー	性別	女
称号クラス				年齢	17歳
種族	フィルボル			境遇	裏切り
出自 (効果)	秘密結社			目標	逃亡

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	43	9	10	9	8	44	38
ボーナス	14	3	3	3	2	14	12
クラス修正	2	1	0	1	0	4	0
他修正						4	
能力値	16	4	3	4	2	22	12

HP	453
MP	203
フェイト	15

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手	ティフェレットの槍	至近	-1	27	0	10	10	-6	0
左手	ナイトシールド					15	7		-1
頭部	古代の冠★強化				-1	2			0
胴部	ナイトアーマー★強化				-3	29	13		0
補助	マーブルポイントアーマー★強化				-3	12	7		0
装身具	暴風王の羽根飾り								
能力値			4	0	3	0	22	5	21
スキル	種族,種,N2,N6,⑤					22	36		
その他	碧竜、リムブーストメタル、鋼の角※					12	12	0	25
総計(右)			3	27					
総計(左)			4	0	-4	102	107	0	45
総計(両)									m
ダイス数			2 d	2 d	1 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	2			2	+ 2 d
トラップ解除	4			4	+ 2 d
危険感知	2			2	+ 2 d
エネミー識別	4			4	+ 2 d
アイテム鑑定	4			4	+ 2 d
魔術判定					+ d
呪歌判定	22			22	+ 2 d
錬金術判定					+ d

所持品	
ハイHP*	リムブーストメタル
ハイMP*	バックパック/ベルトポーチ
ポーションホルダー	ウェポンケース
グレートHPポーション	誓いの剣
グレートMPポーション	ドレスブック
毒消し*	鋼の角※不発中
蘇生薬*	暗視ゴーグル
万能薬*	女神のネックレス
碧竜	暴風王の羽根飾り①
ライディングクロップ	暴風王の羽根飾り②
ナイフ	暴風王の羽根飾り③

現在重量:	34	所持金:	327	預金・借金:	
最大重量:	50				

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
マジックレジスト	★	-	パッシブ	-	自身	-		
効果: 作成時に魔法防御力+3								
ディフェンダー	5	3	マイナ	-	自身	-		
効果: 物防+[15]シーン間								
セルフディフェンス	★	-	パッシブ	-	自身	-		
効果: 物防+5								
アプリケーション	★	-	マイナ	-	自身	-	シ1	
効果: MP[CL*5]回復								
エンカレッジ	★	6	インシアブ	-	単体	-	シ1	
効果: 未行動の対象はメイプでも行える								
カバーリング	◇	2	DR前	至近	単体	-		
効果: カバーする								
カバームーブ	3	4	カバーリング	-	自身	-	シSL	
効果: 20mのカバーリング								
マジックディフェンダー	★	-	パッシブ	-	自身	-		
効果: DFの効果をも魔防にも適用								
カリキュレイト	★	-	インシアブ	-	自身	-	シ1	
効果: メイプでも行える								
ダイアナザーディ	★	-	セットアップ	-	自身	-	シ1	
効果: 自身のHPを[CL*10]回復								
アイアンカバー	3	2	カバーリング	-	自身	-	シSL	
効果: 物防魔防+[防具1つの重量]								
ジョイフルジョイフル	3	7	Xジャー	20m	単体	呪歌	シSL	
効果: 行動済みの対象にメイプでも行わせる								
ファイトソング	1	-	セットアップ	20m	単体※	-	シ1	
効果: すでに使用した「1シ1回」スキルの使用回数を1増やす								
ガルドル	★	4	呪歌	-	自身	-		
効果: 呪歌と同時に使用し[範囲]を[範囲選択]に変更								
アンセム	★	6	Xジャー	20m	範囲	呪歌		
効果: 対象のHPを[3D+CL*2]回復								

購入予定
グレートHP*3 30000
グレートMP*1 15000
ゴルシチ*1 1000
障壁結界印*2 63200
転移符*3 3000
◆計11万2200円
防具強化 100000 (計算済。レベル、重量、物防+2、回避、移動-1)
◆最大+30万

少女の両親は小さな村の神官だった。
そう思っていたのだが、本当は違った。
両親とはある秘密結社の一員で、神殿本部に対するスパイであったことを知ったのは、
神殿の騎士に両親が串刺しにされたのを筆筒の間から目撃した時だった。
運が良かったのだろうか。いや、悪かったのか。
その後、秘密結社の人間に助けられた少女に、決断の余地はなかった。
名前と過去を捨て、惨めな畜生に成り下がった。
だけどいつか逃げ出してやる。
逃げ出して、どこへ行けばいいのかわからないけれど、絶対に。
クーニャと結社に名付けられた少女は、悪意に囲まれながら、それでも背を向ける。
本当に、どこへ逃げればいいのか。

